

キャンパスアジア 北京大学派遣 留学報告

理科2類2年三谷怜司

今回北京大学に派遣させていただいた三谷怜司と申します。この報告書が以降の北京大学留学へ行くみなさんの役に立つよう願っています。目次は以下です。

目次

- 留学へ行く前の中国語の勉強
- 北京についてからの手続きなど
- 大学での Wifi
- 授業
- 観光・旅行に行くなら
- 元培学院の学生向け専用プログラム
- 留学を終えた後の hsk について
- 留学を終えて

留学へ行く前の中国語の勉強

自分は今回の留学でなるべく多くの中国人と中国語でコミュニケーションをとりたいと思っていたので、前セメスターからずっと中国語の勉強はしていました（中国語を始めたのは大学に入ってからです）。主な勉強法としては hsk5 級の問題集を何度も見返したり(hsk5 級は 11 月にとっていました)、6 級の単語帳のなかの単語を覚えたり、リスニングのシャドウイングをしたりすることです。また中国人の友達といっしょに何度もごはんに行ったことも大きいです。8 月と 11 月にそれぞれ南京と北京に別のプログラムの研修で訪れており、そこで語彙力とリスニングが足りないことは実感していたので勉強のモチベーションは十分に保てました。

単語数を増やしたおかげで今回の留学では携帯電話の辞書を開く回数が圧倒的に減ったと思われますし、どんどん読むスピードもスムーズになって行ったと思います。もちろんネイティブに追いつくにはまだまだですが。

また北京や他の地域に住んでいる友達（中国人、日本人問わず）にも事前に留学に行くことのメッセージを wechat で送ったりして、旅行へ行くためのツアーガイドを確保しておいたりしました。ぼくの友達はみんなフレンドリーだったためすぐに引き受けてくれました。

北京についてからの手続きなど

私たち春学期派遣の四人はいく時期が春節とちょうどかぶってしまったため、北京についてから助けてくれるはずの北京大学の中国人の学生たちがみんな帰省してしまっていました。だれも迎えに来てくれないし、ついたあとどうしたらいいかもよくわからないので、とにかく私が USTEP で 9 月から留学に行っている東大の先輩に連絡し、空港に迎えに来てもらい、すべてのめんどろな手続きを手伝っていただきました。

あるとき先輩が来なかったら

- ・宿舎への行き方
- ・宿舎での手続き
- ・携帯電話・SIM の購入
- ・必需品の購入（中关村の家乐福にて）

などが必要以上にもっと時間がかかっていたと思います。携帯電話・SIM はとくに重要で、これがないと銀行の口座も作れないですし、連絡をとりたくても WiFi に常に頼ることになってしまいます。自分は中国のスマホを味わってみたいだったので新たに Huawei の携帯電話を 1000~1200 円でプラン付きで購入しました。中国のスマホを買うことのメリットはそのまま必要なアプリが買う前からダウンロード済みであることです。

銀行口座は北京大学で学生証などを発行してもらい、奨学金をもらうことの手続きをもらったあとにいけます。銀行での口座を作る際は新学期が始まるということもあり、結構待つかもしれません。ぼくらのときは長すぎて途中から昼寝をしてしまいました。また案外英語はしゃべれないこともあるので、中国人の友達、または（春学期なら）USTEP で秋学期に来ていてすでに中国語になれている人をつれていくといいと思います。

銀行口座をつかったあとにはそれをアリペイや wechat とつなげれば、使えるようになります。僕の場合は wechat とつながるまで一週間ぐらいなぜかかかったので、そのときまでは現金を使うか、友達に買ってもらってあとで払いました。

大学での Wifi など

Youtube、Facebook、Instagram と Google は大学の wifi で使えますが、ツイッターや論文が掲載されているようなサイトがときどきつながらないので vpn を使います。自分は有料 vpn はもったいないと思い使わず、「快猫 vpn」を app store からダウンロードして使用していました。

授業

授業は自由に受けることができたので、できるだけ自分の興味がある分野と現地でできた中国人の友達がとっているような授業を受講するようにしました。そうすることでその友達と中国語の会話の練習をすることもできるし、授業の内容について理解を深めることができ、一石二鳥だと思ったからです。また旅行にもいきたいと思ったので、試験が少なめでレポートや期末課題が多い授業を取るようにした結果、とった授業はおもにコンピューターサイエンス、言語学（中国語について）などあまり一貫性がない履修になりました。

篮球	体育教研部	周二 1~2 节	中文	30 人
普通统计学	数学科学学院	周一 7~8 节, 周三 1~2 节	中文	60 人
计算机科学与编程入门	信息科学技术学院	周一 3~4 节	中文	50 人
现代汉语词汇	中国语言文学系	周三 3~4 节	中文	60 人
程序设计思维	信息科学技术学院	周三 10~12 节	中文	60 人

寮での生活は想像以上に楽で心地よかったです。自分は二人で一部屋のはずだったのだが、ルームメイトがなぜか来なかったため（それとも自分が偶然宿舎登録の最後の一人だったから？）部屋を独り占めすることができました。そのため、暇なときには東大の友達などを部屋に呼ぶなどし、ミーティングなどを行っていました。

だが、すでにできあがっているコミュニティにはがんばらないと入れないということに気づきました。ほとんどの交換留学生は9月からきているため、北京大学の新入生たちと新歓を過ごしたりしながらすでに半年間北京にいて、友達の輪ができあがっているのに対し、私たちは学年が始まってから半年遅れできているため少し理解にラグがあったりコミュニティに入りづらいと感じることが少しありました。もちろん日本人会などの交流会はあるのだが、自分は当時まだ延長するかも決めていなかったのでこれから先の四ヶ月を日本人と過ごすのももったいないと思い、結局行かず、ずっと北京大学の中国人学生とキャンパスアジア派遣の東大生と過ごしていました。

大学の環境はとても勉強しやすいと思うが、ときどき物足りないと思ってしまうことがあります。北京は建物と建物の間の距離が広く、東京でいう下北沢や吉祥寺などのかゆいところに手がとどく店が密集している地帯がとても少ないです。北京大学のなかにはカフェや自習スペースは豊富であるが、そのほかのエンターテインメント要素がまだ発達していないと感じることが多かったです。五道口などにはおいしい、面白い店がまたあるそうだが、そこまで行くのにはバス、または自転車で行くことになってしまうため、少しめんどうになってしまいがちです。

ちなみに自分の北京大学で一番好きなところは新太陽と呼ばれる東大の教務課兼イベントスペースみたいなところでしょう。一階から三階まで自習スペースがオフィスの間にとろとろあり、地下にはコンビニ、お土産店、そして最近ようやくできた本屋があります。本屋には北京大学の教授たちが出版した中国語の本が並んでおり、本屋のはしに座るスペースがクッションとともにあるため、学期末はほぼ毎日そこに行き、中国の哲学や歴史についての本を読むようにしていました。

観光・旅行に行くなら

今回の北京大学のメンバーは結構高い頻度で旅行に行っていました。外国人がわりと多い留学生宿舎にずっとこもっているとせっかく中国に来たのにちょっともったいないと感じることがあるので、旅行はわりとオススメです。さらに旅行から学んだことがわりと一番大きかったのではないかと時々思います。

以下に行った場所と予算を軽く書いていきたいと思います。

観光

・故宮

冬に行くとも鼻が凍るので気をつけてください笑
想像以上に大きいです。

海外留学生に用意された故宮ツアーのプログラムの募集が学生証を発行している部屋であり、それに応募しました。バスで海外留学生といっしょにいくのでずっと英語しかしゃべりませんでした。

とにかく大きく、わりとすぐ飽きると思います。

・清華大学

北京大学の隣なのでいきやすいですが、大学内が広すぎる（北京大学よりも広い!!!）ので歩き回るのは天気と気温が良い日が良いと思います。清華大学の学生さんたちはもう広いことに慣れてしまったせいかな、三キロ歩くのなどもなんてことないと思ったりします。（「狭い」北京大学の私たちはヘトヘトになりました）

ちなみに食堂などは北京より清華の方がおいしいと思っている人が多いです。飽きたら行ってみてください。

・三里屯

北京のなかの唯一の二子玉川と勝手に呼んでいます。おしゃれで、物価が高く、ちょくちょく抹茶のおやつのお店やすき焼きのお店を見かけます。奨学金が余っていたらいきましょう。

・五道口

清華大学の東にあり、大学生にとっての下北沢っぽいところかもしれません（下北沢には遠く及びませんが）。よく中国人の友達はそこへ行って食べようと言って来ます。

旅行

・天津（1泊2日）

三月（なので北京についたあと二週間後ぐらい）にいきました。まだとんでもなく寒く、鼻が凍りつくほどでした。1泊2日で清華の友達と行ったのでいろいろ案内してもらえてよかったです。伝統的な商店街を夜に歩いたりしました。寒いにもかかわらず人はとても多かったです。

高铁 100 元 x 2（だったはず？往返）

宾馆 80 元

ご飯代 200 元（？）

とにかくやすかったです。天津はわりと横浜っぽい雰囲気がある気がしました。

・上海 杭州（合わせて4泊5日）

中国のゴールデンウィーク中に北京大学の一般生の友達と行きました。三人の四川人と日本人僕一人でときどき話についていけなくなりましたが。

朝 4:00 に起き、上海で airbnb で家を借りました。上海での行くべきところへは全部行った感じですが、一番楽しかったのは杭州だったかもしれません。杭州での料理はなにかもがおいしかったですし、浙江大学などを回るのもまた楽しかったです。まだ5月でしたがすでに結構暑く、ほぼ毎日タピオカミルクティーを飲んでいました。

お金はだいぶ飛んだと思います。ディズニーなども行ったので。。。

・蘇州（3泊4日）

端午節に高铁（往復で 1100 元ぐらい）ではじめて中国を縦断しました。本当は一人旅で、蘇州にいる友達に会うつもりだったのですが、北京で知り合った中国人の社会人の方が突然ついていくと言ってくれていっしょになりました（おかげでホテル代などが半額になり嬉しかったです）。蘇州では友達と蘇州博物館へ行ったり、湖に行ったり（めっちゃたくさんあります。きれいです。）、お寺に行ったりしました。

元培学院の学生向け専用のプログラム

元培学院の学生は春学期に考古学活動、秋学期にレクリエーション活動に全額無料でいかせてもらえます。私たちは春学期だったので山西省の太原に無料で高铁を乗っていかせてもらいました。ほとんどは1、2年生の学生で実質三年生の自分はおじいさんです。太原は晋の国が昔栄えたり、唐の初代皇帝李淵が挙兵したりした場所なので歴史がとても深い場所です。ですがどうしてもマニアックな知識が必要とする活動が多かったので（建物の様式など）、北京大学の学生でさえもポカンとしていることもちょっとありました。

考古学活動ということで授業の一環のため、夜に太原の観光などは禁じられていました（ですが、ぼくと数人の友達は勝手に映画を見にいきました。）。そもそも太原は電車すらもまだ建設中であまり面白い町ではありませんが。。。

また必須要件として事前授業の参加（3回ほど）、事後発表の参加（サボっていた人は多かったです）、そして3000字の中国語レポートが課されます。

ちなみに秋学期だと去年は南京だったそうです。こちらはもっと自由度が高いようで、観光とかもできるのだと思われます。

留学を終えたあとの hsk について

留学から帰って来た一週間後に hsk6 級の試験がありました。先週結果がようやく見れるようになり、以下ようになりました。

リスニング	77
読解	68
ライティング	85
合計	230

まさかの読解が一番低いのは驚きましたが、自分としては合格ラインの 180 点を超えただけでも上出来だったと自己評価しています。

自分はさらに hskk(hsk の口語試験)も受けましたが、必要がなかったらしく、さらに結果の見方もわからないのでここでは割愛させていただきます。

対策については以下のようにおこないました。

hsk6 級の過去問は前から家があったのでそのリーディングとライティングをやりました（リスニングの cd を紛失してしまったのでそれしかできませんでした）。リーディングは問題数が多く、最初の文法ミスを探すのがネイティブでも難しいようですのでその対策を練るために練習をしました。ライティングは与えられた文章を暗記し、文章が回収されたあとに別の用紙にその内容を再現するというもので、暗記力が問われます。ライティングにおいて時間は案外あまるかもしれませんのでそのぶん漢字のミスや文法のミスなどのチェックを入念に行うとよいです。

留学を終えて

留学を通して本当に素晴らしい友達に出会えたと思います。この人々に出会っていなければ今の自分はいないでしょう。留学を選んで本当に正解でした。

一緒にキャンパスアジアプログラムで一緒になったメンバーもみんな波長があうよき友達となりました。みんなそれぞれどのように将来を形作っていくかを考えており、そのために今必死に勉強し、行動している姿は自分に大きな刺激を与えました。その友達らに感化され、東京に帰って来た後も勉強や読書を怠らぬよう自分なりに（まだまだ足りないが）鞭を打っているつもりです。

また、北京をみただけで中国全体を判断してはいけないということも留学を終えてやっとわかってきたことでもあります。北京はまだ日本人にとってはなまぬるい過ごしやすい場所なのだと感じたので、機会があれば次回は国際化があまり進んでいないような場所に行ってみたいと思います。

最後にこの場を借りて私たちの留学を何度も手伝ってくださった EALAI の皆様に感謝の言葉を申し上げます。この素晴らしい機会をありがとうございました。